

JAEF REPORT

令和7年7月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 理事会、評議員会を実施：新理事長に佐藤恒治氏
- ◆ 令和7年度自動車技術教育用教材提供へ116校から応募
- ◆ 44都道府県の研修会(241件)に講師を派遣

- ◆ 令和7年度JAEF研修会の参加者を募集
- ◆ “ジャパンモビリティショー2025”「高校生見学会」受付開始
- ◆ 動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」にシリーズ動画を掲載

理事会、評議員会を実施：新理事長に佐藤恒治氏

5月から6月にかけて、下表の通り理事会・定時評議員会が相次いで開催され、令和6年度事業報告・決算や役員体制が承認された。

本年は理事・監事の改選期に当たり、理事11名と監事2名が選任された。この4月に施行された公益認定法施行規則の改正に伴い、被選任者より外部理事（7名）および外部監事（2名）を設置した。理事では3名（内山田 竹志氏、田川 丈二氏、上橋 義弘氏）が退任し、新たに3名の理事（佐藤 恒治氏、坂根 学氏、大熊 裕二氏）が選任された。佐藤 恒治氏が理事長に、坂根 学氏が副理事長、有賀 潔氏が専務理事、大熊 裕二氏が常務理事に選定され、新体制がスタートした。また、退任された評議員4名の後任となる評議員の一部選任案も承認された。新たな役員体制については、別紙の「理事・監事・評議員名簿」をご参照下さい。

会議体（開催日）	主な議案	開催場所
第34回理事会 (5月21日)	・令和6年度事業報告・決算 ・第14回定時評議員会の開催	芝パークホテル
第14回評議員会 (6月10日)	・令和6年度事業報告・決算 ・理事、監事の選任 ・評議員の一部選任	経団連会館
第35回理事会 (6月10日)	・代表理事、業務執行理事等の選定	経団連会館

令和6年度は、財団事業の核として注力している技術教育支援事業において、前年度に続き顕著な成果を収められた。その他事業においても、ほぼ計画通りの活動を実施した。

令和6年度事業報告の概要

技術教育
支援事業

- 教材提供活動・講師派遣活動において、過去最多を達成
- 交流促進活動では自動車販売会社の店舗・工場見学を取り入れ自動車整備の現場理解促進が図れた

研修事業

- 講師派遣はコロナ禍前の過去最多に並ぶ363校へ派遣実施
- JAEF研修会は予算制約の中、全3回を実施し、参加者から高評価を得た

調査・普及
啓発事業

- “自動車技術 講師派遣”紹介動画の制作・公開により、利用促進活動の強化に貢献
- SNS等を活用し、各種情報発信の強化を継続実施

…5～6月

財団運営

なお、令和6年度事業報告の概要をまとめた動画を作成しておりますので、是非ご覧いただき（右のQRコードよりアクセス）、財団活動により一層のご理解を賜りますようお願い申し上げます。



▲第14回評議員会の様子

第14回評議員会の終了後には、評議員、理事、監事及び関係団体・企業の皆様にお集まりいただき懇親会を開催した。同会の冒頭、佐藤 新理事長が「現場力、モノづくりの原理原則を理解し、もっといいモノやサービスを追求する『人の力』こそが日本の強み。財団活動を通じ、モノづくり人材の基盤を未来にしっかり繋ぐお役に立てるよう、汗をかいていきたい。」と抱負を述べた。



▲懇親会の様子

上述の通り財団は新体制に移行いたしました。今後も高等学校における自動車技術教育、交通社会教育の支援に積極的に取り組んでいく所存です。皆様方のご支援、ご協力を今後とも宜しくお願いいたします。

INFORMATION

7～9月予定

- 31都道府県の研修会（65件）に講師を派遣予定 7～9月
- 審査委員会開催、令和7年度教材提供校を決定 8月 6日
- JAEF研修会を開催 7月30日
- 自動車技術教育イベントを支援 8月

令和7年度自動車技術教育用教材提供へ116校から応募

……6月

技術教育

財団は、技術教育支援事業の一環として、今年度対象の18県（下記参照）で自動車技術教育を実施している272校に対し、6月初めに応募要項を送付した。

今年度は新教材として、「デジタルトルクチェッカーセット」を設定。自動車整備における重要な基礎技術であるボルトなどの締め付けについて、その度合いを数値で把握しながら、適度な締め付けが体得できる教材で、多数の先生方からの要望に応えた。また、昨年度の新教材「EVミニカート・キット」についても、学科横断で協力しながら、電気自動車の構造に加え、モーターの分解組立・プログラミングに関する理解を深めることができる教材として、引き続き推奨している。

6月30日現在で116校から応募があった（応募率43%）。全国を3ブロックに分け3年毎に公募する形とした平成22年度以降、同地域で最多となる（同地域前回と比べ25校増加）。最終的な提供校および支援内容は、8月6日に開催する審査委員会（加藤秀次委員長）で、厳正な審査・選考により決定する。

<応募内容詳細（第一希望メニュー）>

応募数の多い教材は、1位が「分解組立用汎用エンジン」で28校（全体の24%）、2位が「EVミニカート・キット」で26校、3位が「実習用工具セット」で9校。「デジタルトルクチェッカーセット」は2校から申し込みがあった。

提供教材の確定後に、対象各地で行う教材目録贈呈式・教育懇談会については、一昨年度より自動車販売会社での開催を増やしている。併せて整備工場等の現状について、現地現物で確認することで、就労環境に関する正しい認識につながっている。この取り組みの実施地域は年々増加し、昨年度は6県で実施。参加いただいた先生からは「整備は男社会と思っていたが、清潔で女性も働きやすい環境になっている」「処遇も改善されており、今後の進路指導に役立てたい」など多くの気付きがあり、大変有益な機会になった。今年度も更なる実施機会の増加を目指している。

贈呈式及び教育懇談会の開催については、対象となる地域の自販連各支部（自動車教育推進協議会）の事情に鑑み、緊密にご相談しながら進めさせていただきます。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



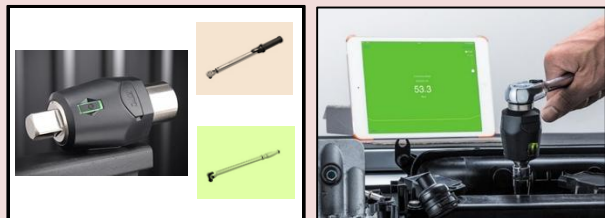
▲茨城日産自動車㈱<写真 左>、三重日産自動車㈱<同 右>での整備工場見学の様子（令和6年度開催）

【令和7年度 公募地域（18県272校）及び応募校数・提供校数】

対象地域	秋田県	山形県	群馬県	山梨県	新潟県	長野県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県
対象校数	12	20	16	10	20	17	6	9	16	9
応募校数	4	7	11	7	9	3	3	5	7	7

対象地域	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
対象校数	33	10	15	16	14	14	23	12	272
応募校数	16	2	6	9	5	2	7	6	116

【令和7年度 新設教材】



▲「デジタルトルクチェッカーセット」

【令和7年度 人気教材*】



▲ <No.1> 「分解組立用汎用エンジン」



▲ <No.2> 「EVミニカート・キット」



▲ <No.3> 「実習用工具セット」

*第1希望としての申込

44都道府県の研修会(241件)に講師を派遣

… 4～6月

研 修

令和7年度4～6月の講師派遣実績は、開催件数241件（前年同期差 +29件）、参加者74,796名（同 +581名）といずれも増加した。

全241件の分野別内訳は以下の通り。「自動車技術」「交通安全」ともに申込件数増加に向けたこれまでの取り組みの成果が表れてきている。

分野	件数（前年同期差）	対象
1)自動車技術	13（+ 6）	主に工業系の生徒
2)交通安全	228（+23）	生徒指導担当の先生並びに生徒



▲宮城県多賀城高等学校での講師派遣（交通安全）

尚、研修会メニュー別実績件数は以下の通り。

1)自動車技術：計13件（最新技術9件、整備技術4件）

自動車の最新技術に関する研修は、最新の電動車両の見学などを通じ、先進技術に直接触れることができる出前授業。ハイブリッド車や燃料電池自動車などについて、電気科をはじめ幅広い学科の生徒にわかりやすく解説している。



▲広島市立広島工業高等学校での講師派遣（自動車の最新技術）

また今年度、出前授業の新メニュー「自動車整備の基礎」を新設。「工具の種類や使い方」「ネジの適度な締め付け方」を始め、整備業務に不可欠な基本技術を学びとともに、整備士への興味関心を高める内容としている。これまでの申込件数は11件で、自動車技術メニュー全体の約3割を占め、最多となっている（6/27現在）。

講習に参加した生徒、先生からは「整備士になるにはどうすればいいのかわかった。」「ねじの締めすぎによる破損を体験し、感覚をつかめた。」「今回の授業を通して多くの生徒が整備士に興味を持った。」と高い評価を得た。



▲福島県立二本松実業高等学校での講師派遣（自動車の整備技術）

2)交通安全：計228件

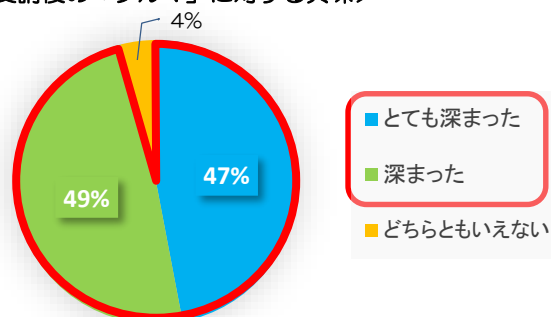
ヘルメット着用の重要性	64
夜間の交通安全対策	14
ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	126
交通事故のリスクと損害保険の役割	8
自転車事故のリスクと損害保険の役割	14
二輪車（バイク）の交通安全	2

財団では、当講師派遣活動の効果を定量的に把握すべく、今年度より受講生徒を対象としたアンケートを開始した。当該期間では計69校14,500名以上から回答を得て、顕著な成果が確認できた。アンケート結果は講師を務めていただいた企業・団体とも共有し、更に効果的な講習の実施に向け努めていく。

「自動車技術」「交通安全」分野の主な設問に対する回答は以下の通り。

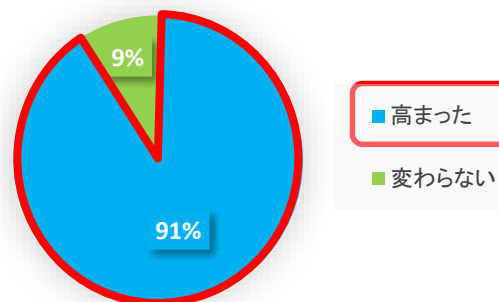
1)自動車技術：計 3校 72名

<受講後の「クルマ」に対する興味>



2)交通安全：計 66校 14,446名

<受講後の交通安全に対する意識>



講師については、全241件のすべてを地元の自動車教育推進協議会メンバーにご担当いただいた。

講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして深謝申し上げます。

今年度分全体の申込件数（「自動車技術」「交通安全」両分野の合計）は、前年同期と比べ53件増加し367件となっています（6/27現在）。引き続きまして、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和7年度JAEF研修会の参加者を募集

…6/4～

研修

財団は令和7年度JAEF研修会の募集について、当財団メールマガジンに登録された先生方への案内、及びSNSを用いた情報発信を行い、幅広く参加を募った。本年度は下記1回の開催を予定。既に定員に達したため、募集は終了している。

【今回のテーマ・狙い】

- ▽「観る」・「走る」富士スピードウェイ
～モータースポーツを通じてモビリティの魅力に迫る～
- ・モータースポーツに関する見学・体験等を通じて、研修で学んだことや気づきを、授業等で生徒に伝えてもらい、モビリティへの関心高揚につなげる

【実施日】7/30（水）

【参加者】30名

【内 容】富士モータースポーツミュージアム
ウェルカムセンター&
ルーキーレーシングガレージ
カートイベント（雨天時 サーキット体験走行）
他

JAEF研修会は、交通・環境・交通安全などをテーマとして、全国の高校教諭を対象に実施する財団主催の研修会である。平成4年のスタート以来、関係団体・企業のご協力により、各界の専門家による講演会と施設見学や体験実習などをセットにして行い、参加した先生方から高い評価を得ている。

今年度も文部科学省、および全国高等学校長協会、全国工業高等学校長協会、日本私立中学高等学校連合会、全国総合学科高等学校長協会、全国公民科・社会科教育研究会の後援・協賛を得ており、財団は広く全国の高等学校の先生方に参加を呼びかけている。



▲令和6年度 第1回JAEF研修会の様子（ツイートリンクもてぎ）

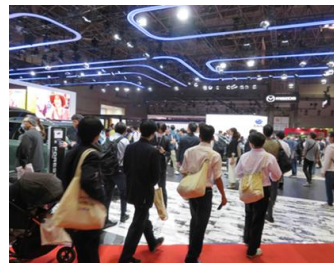
“ジャパンモビリティショー2025”「高校生見学会」受付開始

…5/23～

財団は、今秋の“ジャパンモビリティショー（JMS）2025”開催にあたり、クルマおよび将来のモビリティ社会に対する関心高揚に加え、同ショーへの来場を促進すべく、高校生を対象とした見学会を企画し、募集を開始した。本件は前回に続き、同ショー主催者である（一社）日本自動車工業会との協業により実施している。

尚、当見学会の参加者にはJMSオリジナルエコバックを贈呈することとしている。

申込は、財団ホームページにて9/12（金）まで受け付けている。



▲ JMS2023の様子

動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」にシリーズ動画を掲載

…4月～5月

普及啓発

財団は、動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」にて、動画コンテンツ「“助け合い型”ライドシェアは超高齢社会で移動の自由を確保できるか」を3回のシリーズ動画として、財団ホームページに掲載した。

自動車免許の自主返納者が増える一方で、バス路線の廃止・運行本数の縮小や、タクシーの台数不足などにより、マイカーなしではどこにも行けない『交通空白地帯』が全国各地に生まれている。その解決策として期待されるライドシェアの中でも、ドライバーと利用者が費用を折半して相乗りする「助け合い型ライドシェア」に注目し、その更なる普及の可能性や課題について、紐解いている。

1 回目『なぜ、移動しにくい社会に？』

- ・自動車免許の自主返納者数や公共交通機関の現状などをもとに、移動が難しい超高齢社会となっている要因を解説

2 回目『個人ドライバーが支える新たな移動手段』

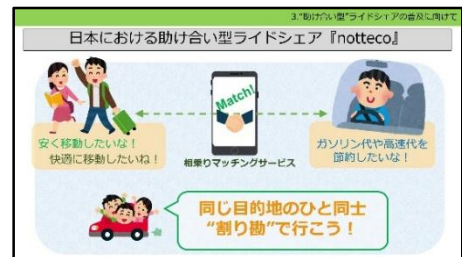
- ・国内外の様々なライドシェアの現状や特徴などを紹介

3 回目『“助け合い型”ライドシェアの普及に向けて』

- ・“助け合い型”ライドシェアの現状を踏まえ、ライドシェア普及に向けた課題について提言



▲『“助け合い型”ライドシェアは超高齢社会で移動の自由を確保できるか 1.なぜ、移動しにくい社会に？』



▲『同 3. “助け合い型”ライドシェアの普及に向けて』

※「早わかり！クルマ塾」は以下URL、右記QRコードよりご覧いただけます。
<https://jaef.or.jp/6-kurumajuku/>

